平成２７年度　男女共同参画推進室　事業報告

はじめに

男女共同参画推進室は、平成２５年度に学則上の組織となり、平成２７年度までを事業期間とする文部科学省の「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」（以下、「拠点型事業」という）にも採択された。

平成２７年度は、これまで取組んできた研究者支援とワークライフバランスの推進に努めるとともに、地域の拠点として拠点型事業の最終年度として研究者支援策の普及に一層努めた。ここに平成２７年度の取組を総括し、平成２８年度への課題を述べる。

１．第２期行動計画の最終年度

男女共同参画憲章（平成２０年制定）に基づく第２期の行動計画（平成２５～平成２７年度）の最終年度として、昨年度に引き続き計画の遂行に務めた。

特に、取組における重点項目として掲げた、シンポジウムの開催、拠点型事業による一時保育支援制度及び病児・病後児保育新制度の導入、他部局との連携した取組などについては、所期の成果をあげることができた。

また、平成２８年度を初年度とする第３期の行動計画（平成２８～平成３０年度）も策定した。

２．中期計画５２番（女性教職員の採用および管理職への登用を推進する）

(1) 女性研究者（教育者）採用加速システムの効果

平成２７年４月１日から平成２８年３月３１日までの１年間に５２名の教員（常勤のみ）が採用され、そのうち女性教員は７名であった（女性教員採用比率１３．４６％）。また、新規採用女性教員のうち女性教員採用加速システムを利用したのは６件であった。

(2) 女性教職員の管理職への登用

○経営協議会における女性委員は、２名。
○教員の女性管理職は、副学長１名、学長補佐１名。
○教員の女性準管理職は、学部長補佐３名、学科長・専攻長１名。
○事務局の女性管理職は、課長級２名。
○事務局の女性準管理職は、副課長３名（附属学校事務室長を含む）。

女性の管理職への登用を進めるため、一昨年に実施した事務職女性係長を対象とした「女性職員キャリアサポートセミナー」を踏まえ、昨年度に引き続き今後の対応策について検討を行った。平成２８年度は、検討結果をもとに具体的な取組を行う。

３．中期計画５３番（ワークライフバランスに向けた労働環境の改善を進める）

(1) 浜松学童保育（愛称「キッズ・ラボ」）の実施

夏休みと春休みの長期休暇期間中に実施している学童保育は、本学関係者以外の利用も多く、社会的評価が定着している。運営は、平成２５年春休み（平成２４年度事業）から、安定的運営と効率化のため、外部委託しているが、平成２７年度も入札により委託先を「特定非営利活動法人浜松男女共同参画推進協会」に決定し、委託契約を締結した。

契約額は、３，０６７千円であったが、利用料収入が２，９５５千円あったので、本学の負担額は、１１２千円であった。

夏休みは、平成２７年７月２４日～８月２８日の土曜日、日曜日と夏期休暇を除く２４日間実施し、定員一杯の４０名の参加（申し込みが定員を超え（６５名）のため選考を行い、本学関係者の児童１６名と学外からの児童２４名に入所を許可）があった。

春休みは、平成２８年３月２２日～４月６日の土曜日、日曜日を除く１２日間実施し、２７名の参加（本学関係者の児童１１名の他に学外から１６名）があった。また、春休み期間中の４月実施の恒常化のため、場所の確保について引き続き協議・調整を行う。

(2) 静岡多目的保育施設（愛称「たけのこ」）の運営

平成２７年度１年間の利用実績は、一時保育延４５名、授乳延３名、学内外からの施設見学４名、ゼミ等利用延１７７名、その他ミーティングや打合せ・相談など延１４８名、キャンパス・フェスタ in 静岡時の訪問者８６名、推進室の会議（定例、臨時）が２９回行われた。また、子育て支援事業（お話の会）を１回行い、親子７名が参加した。なお、平成２７年度は、緊急時（学級閉鎖）の利用はなかった。

教育学部開講の「アートとコミュニケーション」の受講生により、子ども向けの教材作成が行われ、保育環境の整備を図った。

(3) 相談窓口

平成２４年度から、各部局の男女共同参画推進委員が相談窓口となるシステムに変更し、平成２７年度は延７０件の相談があった。

(4) 研究支援員制度

平成２５年度より募集を通年とし､募集も随時の受付として制度運用の要件を緩和する一方で、報告義務を強化した。平成２７年度は、８名の研究者に９名の支援員を、週当たり延７７時間配置した。研究の進捗と効率化が図れるとともに、ワークライフバランスの推進に寄与した。

(5) 学会参加時保育支援制度の拡大

入試業務に従事するときも保育支援がほしいという要望に応えて、平成２５年度から入試業務にも適用できるよう制度を改めているが、平成２７年度は学会参加、入試業務で各１件の合計２件の利用があった。

(6) メンター制度

新任の女性教員に対してメンターをマッチングさせ、１６名に対してメンターを割り当てた。また、平成２７年度から新規採用の男性教員のうち希望する教員にもメンターが配置するようにし、男性教員２名が希望したため男性教員にもメンターを配置した。なお、昨年度に引き続き外部へ委託してメンター講習を実施した。

(7) 休業・休暇制度の利用

平成２７年度中に育児休業を取得した教職員は１８名（うち平成２７年度に新たに取得した者は９名）で、女性１８名であった。また、復帰後の育児短時間勤務の利用者は２名であった。

４．学生，中高生への啓発事業

(1) 学際科目

静岡・浜松両キャンパスで「ジェンダーからみる現代社会」を開講し、受講者は合計１２６名（静岡１０４名、浜松２２名）であった。社会人６名を招き、キャリアセミナーを３回設けた。

(2) オープンキャンパス

８月７日（金）に静岡オープンキャンパスでは理学部と農学部において、浜松オープンキャンパスでは工学部において、女子在校生による「女子高校生進学相談コーナー」を開設した。また、情報学部で全参加者に女子寮を紹介するチラシを配布した。

女子高校生の相談者数は、理学部３３名、農学部５２名、工学部３２名の合計１１７名であった。また、保護者からの相談も多数あった。

(3) 農学部出前授業

７月２４日（金）に西遠女子学園高校学校（浜松市中区、対象は高校１年生）へ農学部教員が出前授業に出向いた。

(4) ジェンダー関連科目の広報

学生の履修登録期間にポスターや電光掲示板により、ジェンダーに関連する授業をリストアップして広報し、受講を勧めた。

５．意識改革事業

⑴新入生への啓発

３種類のリーフレット（男女共同参画の推進、多目的保育施設の案内、災害の対策をジェンダーの視点から考えよう）を新入生に配布した。平成２８年度の新入生から、紙媒体での資料配付を取り止め、ＷＥＢ上での情報提供に切り替えることとなった。

⑵キャンパス・フェスタ in 静岡（１１月１４～１５日）

昨年度に続き、教育学部中野美恵子教授の指導により「あなたの自立体力をたしかめてみよう」と題して体力測定会を多目的保育施設「たけのこ」において開催し、８６名が参加した。

⑶男女共同参画シンポジウム

「地域連携による女性研究者支援 」（１１月１２日）

○基調講演

講師：橋本孝之氏（日本ＩＢＭ株式会社副会長）

○しずおか優秀若手女性研究者表彰式

○女性研究者研究活動支援事業（拠点型）プログラム成果報告

○女性研究者研究活動支援事業（拠点型）における支援策活用者によるショートリポート

○今後の展望と取組み

平成２５年度に採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」の取組みの一つとして静岡キャンパスで開催し、１０８名の参加があった。

６．地域と連携した男女共同参画

⑴ 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」

研究者支援の各種取組みを他の研究機関に普及させることを目的とした「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」（以下、「本事業」という）に平成２５年度～２７年度までの３か年間を事業期間として採択され、本学が拠点となって、連携して取組む研究機関に対し、研究支援員制度等のさまざまな支援策の普及を図った。連携して取組む研究機関は、静岡県、浜松医科大学、静岡県立大学、静岡理工科大学、静岡英和学院大学、国立遺伝学研究所、浜松ホトニクス株式会社、株式会社鈴与総合研究所、第一工業株式会社、株式会社Ｊ-オイルミルズ生化学研究所、株式会社アイエイアイ、住友化学園芸株式会社製品開発センターの１２機関である。

平成２７年度は事業の最終年度として、本学の研究者支援策の普及など事業目的の達成に向け、５つの項目（意識改革と啓発、ワークライフバランスの推進、研究能力の向上と裾野の拡大、女性研究者の登用、推進手法と体制の整備）を設け、積極的に事業を展開した。主な取組み内容は、以下のとおりである。

① 意識改革と啓発

・シンポジウムの開催

１１月１２日（木）に本学静岡キャンパス大学会館において、「地域連携による女性研究者支援」をテーマとして、基調講演の講師として橋本孝之氏（日本ＩＢＭ株式会社副会長）を招いて開催し、連携機関からの参加者も含め１０８名の参加があった。

・「定例交流会」の開催

定例交流会を４回開催した。昨年度から通算して第８回定例交流会（静岡県立大学短期大学部にて６月１１日（木）開催）は、本事業の最終年度として、平成27年度の事業計画ならびにミッションステートメント達成にむけた取組やスケジュールについて説明を行い、最終年度の事業への協力を要請した。第９回定例交流会（静岡科学館“る・く・る”にて９月１１日（金）開催）は、ミッションステートメント達成にむけた取組

の進捗状況および女性研究者比率・採用比率に関する調査結果の報告を行った。その上で、今後のスケジュールの説明を行い、最終年度の事業への協力をさらに要請した。第１０回定例交流会（本学静岡キャンパスにて１１月１２日（木）開催）は、本事業のこれまでの活動報告及び事業終了に向けた協力を要請した。第１１回定例交流会（本学静岡キャンパスにて平成２８年３月４日（金）開催）は、拠点型事業の総括及び平成２８年度の事業計画について説明を行い、事業終了後も取組を継続して行うよう協力を要請した。

・「スタート・ワーク・アゲイン・ミーティング」の開催

育児休暇中、育児休暇から復帰後概ね１年以内の女性研究者、これから結婚・出産する女性研究者及び労務担当者等を対象とし、本学浜松キャンパスで９月２８日（月）、本学静岡キャンパスで１２月１８日（金）に開催して、育児中の悩みや復帰後の働き方などについて不安や経験を話し合う機会とした。

②ワークライフバランスの推進

・本学支援策（「一時保育」「研究支援員制度」「学会参加時等保育支援制度」「リプロダクティブヘルス休暇」）の連携機関への普及に努めた。

昨年度に引き続き、本学の研究者支援策を定例交流会で紹介、説明を行い、連携機関に同様の支援策導入の課題や可能性について検討を促した。また、本事業の最終年度であることから、各連携機関でのミッションステートメントへの取組状況を確認するため、各連携機関の女性研究者在籍比率、女性研究者採用比率及びミッションステートメント達成に向けた取組状況を調査し、第９回定例交流会時において各機関が取組内容を発表し、意見交換を行った。また、「女性研究者研究活動支援事業における病児及び病後児保育支援制度」の運用を開始した。

・「飛ぶ教室」の開催

本学支援策の連携機関への普及を図るため、９月１６日（水）に連携機関の静岡英和大学へ赴き、本学の支援策の紹介、説明と本事業の周知ならびに協力依頼を行った。静岡英和学院大学の教職員６０名の参加があった。

また、１２月９日（水）に常葉大学へ、平成２８年１月８日（金）にスズキ株式会社へ赴き、本学の取組を紹介するとともに、両機関は連携機関ではないが今後連携して研究者等の支援に取組んでいただきよう要請した。

・健康・介護問題への対応を目指した相談体制の運用

昨年度に引き続き、各連携機関の健康管理部門及び静岡県社会福祉協議会に対して、連携機関の研究者の相談に対する円滑な対応について協力依頼を行った。健康や介護に関して、気軽に相談できる窓口（「病院へ行く前段階の相談（健康相談）」と「介護認定に至る前段階の相談（介護相談）」を行う窓口）を整え、研究者自身と家族の健康不安を軽減する体制整備に努めた。

・「健康教室」「介護予防教室」の開催

「健康教室、研修会」では、健康教室と研修会を兼ねた「ラジオ体操の講義」を２回開催した。６月２９日（月）の連携機関の研究所である**静岡県農林技術研究所果樹研究センター**での開催には３３名、１０月１９日（月）の本学浜松キャンパスでの開催には８名の参加があった。この取組では、静岡県ラジオ体操連盟理事長の本学教育学部教員が講師となり、ラジオ体操の有効で効果的なやり方について解説・指導し、健康づくりへの関心を高め、研究能力の維持向上には健康の維持が必要であることを啓発した。

「介護予防教室、研修会」では、連携機関である静岡県立大学の短期大学部において６月１１日（木）に「幸齢者になろう！－介護をする、介護を受ける“こころ”の準備－」を開催し、３３名の参加があり、看護分野を専門とする吉村惠美子氏から、こころに寄り添う介護について、自身の看護の経験をもとに講演いただき、介護の心構えや基礎知識を学ぶ機会を提供した。

また、本学浜松キャンパスにおいて、１０月１９日（月）に介護予防教室と研修会を兼ねた取組として、本学教育学部教員を講師として、「お年寄りでも出来る筋力トレーニング！！」を開催し、７名の参加があった。健康に関する体力についての解説と実技

の研修を行い、実際に体を動かして、トレーニング方法の指導を受けた。

③研究能力の向上と裾野の拡大

・本学が中心となった共同研究の推進

国際レベルの論文執筆、国際学会での発表等を条件として、本学の女性研究者と連携機関の研究者による共同研究に要する費用を支援するため、「女性研究者研究活動支援事業における連携研究支援制度」を運用し、新たに支援の募集を行ったところ、３件の応募があり、全件を採択した。これにより、昨年度までに採択した７件と併せて１０件の共同研究を支援した。

・異分野研究者勉強会の開催に向けた検討

静岡科学館“る・く・る”において９月１１日（金）に女性研究者による共同研究の促進、異分野研究者の勉強会、ロールモデルの紹介を目的とした「共同研究ラブコールイベント」を開催し、連携機関や他の研究機関及び高校生１１５名の参加があった。

前半では、女性研究者によるポスター発表会を行い、本学と連携機関の研究者から２４件のポスター発表があった。後半では、研究者のロールモデル紹介とＳＳＨ高校生との進路選択座談会を開催した。はじめに５人の男女の研究者から、これまでの進路選択の経緯、子育てと研究の両立やキャリア形成に関する体験談があり、その後、５つの班に分かれ、高校生と研究者が進路選択について直接質疑応答を行った。

・研究倫理に関する情報提供

平成２８年３月４日（金）の第１１回定例交流会後に研究倫理研修会を開催し、２７名が参加した。講師より、研究を行う際の研究倫理について、倫理、生命倫理、研究倫理とを比較して、具体的な事例をもとに説明を受けた。

・連携機関の女性研究者によるロールモデルの紹介

本学浜松キャンパスにおいて８月７日（金）のオープンキャンパスの機会を活用し、理系学部への進学や研究職・技術職に就くことへの迷いや不安を払拭するため、女性研究者と理系学部への進学を希望する女子高校生・女子大学生・女子大学院生との交流会を開催した。本学の工学部化学バイオ工学科の女性研究者から、これまでの進路選択の経緯、就職活動の実際、現在取り組む研究等について、スライドを用いながら講演いただき、その後、質疑応答、意見交換を行った。

・男女共同参画ライブラリーの設置

本学農学部にキャリア形成に関わる図書や各大学発行のロールモデル集を設置し、女子学生を中心に情報提供を行った。

・研究支援員制度の運用

昨年度創設した研究支援員制度を運用し、連携機関の女性研究者を対象にして、年度を上半期と下半期に分け、上半期、下半期とも５名の延１０名の女性研究者に研究支援員を配置した。

・学会参加時保育支援制度の運用

学会参加時保育支援制度を運用したが、本年度の利用申請はなかった。

・一時保育支援制度の運用

昨年度創設した一時保育支援制度を運用し、本学の女性研究者２名及び連携機関の女性研究者１名に対し、本学多目的保育施設利用時に要した保育費用の一部を支援した。

④女性研究者の登用（キャリア形成支援）

・「メンター研修」の開催

５月２８日（木）に本学静岡キャンパスと浜松キャンパスをテレビ会議システムで繋いで、外部講師を迎え、キャリア形成支援研修「メンター研修」を開催した。１６名の参加があり、メンターとしての心構えや必要となるスキルについて学んだ。

・「英語プレゼンテーション研修」の開催

１０月１日（木）に本学静岡キャンパスにおいて、講師に連携機関の国立遺伝学研究所の広海健氏を招いて開催し、２１名の参加があった。論文発表と口頭発表（プレゼンテーション）の違いとは、プレゼンテーションの目的、わかりやすくて効果的なプレゼ

ンテーションのやり方について、遺伝研で開発されたカリキュラム（遺伝研メソッド）をもとに、いくつかのトピックを紹介しながら、具体的なアドバイスがあった。

・管理職を育てる手法の検討

「管理職育成メンター制度」を創設して運用し、本学の女性教員が管理職となることへの不安を軽減し、組織をマネジメントする能力を向上していくために、本学において管理職を経験した教員のうちメンターとなる者に気軽に相談できる体制を提供した。

また、１２月１０日（木）に本学静岡キャンパスにおいて、本学元副学長の大村知子氏より自身の経験をもとに管理職の心構えや必要となるスキル等について講演いただき、その後、質疑応答と意見交換を行った。

さらに、同じ１２月１０日（木）に管理職業務を体験する機会の提供を通して管理職の育成を図るため、管理職育成インターンシップを実施した。１名の女性研究者が参加し、実際に役員会等へも陪席して、管理職としての業務を経験した。

⑤推進手法と体制の整備

・「定例交流会」の開催（再掲）

・連携機関と各機関が保有する情報（周辺の採用公募情報、外部資金獲得情報等など）共有化のためデータベースの作成

平成２５年度に開設した女性研究者研究活動支援事業（拠点型）専用のホームページを運営し、学内外に事業概要及び各種情報等を積極的に発信した。また、研究者相互の情報交換や意見交換を行えるように本学および連携機関の研究者が利用できる会員用メニューサイトも運用した

(http://www.sankaku.shizuoka.ac.jp/)

・「静岡女性研究者ネットワーク」構築に向けた取組

「静岡県女性研究者ネットワーク」の構築を目指し、専用ホームページの会員用メニューサイトに昨年度開設した女性研究者のデータベースを運用した。

(2)子育て支援事業の実施

平成２７年度は、静岡市内で親子に「お話」を語り、聴かせている方を講師に招き、親子を対象とした「お話の会」を開催した。

・１０月２７（火）：未就学児童と保護者を対象とし、３組７名の参加があった。

参加者から、多彩な子育て支援イベントを今後も開催してほしいとの声が寄せられた。

７．その他

(1)外部からの定期的調査への回答

①国大協調査、②文科省調査、③静岡県

(2)外部からの要請への対応

①駿東郡長泉町「男と女のチャレンジらいふ講座」の講師として参加（７月８日）

②内閣府所管「ＷＡＷ！2015　シャイン・ウィークス公式サイドイベント」に事業登録（７月２７日）

③男女共同参画推進フォーラム（ＮＷＥＣフォーラム）に参加（８月２０日）

④しずおか男女共同参画推進会議に参加（８月２６日、１１月１０日）

⑤静岡市「市長と女性議員が語る会」に参加（１０月８日）

⑥男女共同参画学協会連絡会にて本学の取組みを紹介（１０月１７日）

⑦ふじのくに男女共同参画防災ネットワーク会議に参加（１０月１９日、平成２８年２月１０日）

⑧静岡県「男性リーダー養成セミナー」に講師として参加（１１月１８日）

⑨ふじのくに「さくや姫」サミットへ参加（１１月２８日）

⑩独立行政法人国立女性教育会館主催「大学等における男女共同参画推進セミナー」に参加（１２月３日）

⑪文部科学省主催「科学技術人材育成費補助事業４事業に関する合同シンポジウム」に参加

（１２月１４日）
⑫日本学術会議学術フォーラム「日本の戦略としての学術・科学技術における男女共同参画－『第４次男女共同参画基本計画』との関わりで－」に参加（１２月２０日）
⑬静岡県「ふじのくに少子化突破戦略シンポジウム」に参加（平成２８年２月１２日）
⑭静岡県「パワーアップ補助金活用団体報告会・交流会」に参加（平成２８年３月３日）

(3) 発信

①ホームページを随時更新した。
②ニュースレターを４回発行した。
③ポスター、メール配信、電光掲示板を活用して情報提供を行った。
④図書館下の学務部掲示板の一角を男女共同参画コーナーとして学生にも情報を発信した。

(4) 推進体制

①男女共同参画推進委員会を５回開催した。
１つの小委員会と４つのワーキング会議を置いて、集中的な検討と審議を行った。
研究支援員制度小委員会
地域連携ＷＧ、事業検討ＷＧ、学生向け事業ＷＧ、女性の採用と登用の推進ＷＧ
②男女共同参画推進室会議　２５回開催
③特任教員が平成２７年度末で任期満了に伴い退職するため、平成２８年度から勤務する教員の採用を決定した。

８．今後の課題

平成２８年度も**①意識改革、②女性の採用と登用、③ワークライフバランス、④学生向け事業、⑤地域連携事業**という**＜５つのアジェンダ＞**を着実に進めていく。

地域の拠点機関として、第３期中期目標・中期計画の初年度となるため、新たな計画のもと、積極的な事業展開を図りながら、学内の各組織とも連携して、学びやすく働きやすい大学を目指して、静岡大学の発展の一端を担っていく。

また、平成２５年度に採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」により構築された地域とのつながりをもとに諸事業の一層の推進を図り、新たな外部資金の獲得に向け、検討を進める。